

2010

NATIONAL UNIVERSITY CORPORATION
UNIVERSITY OF YAMANASHI

地域の中核 世界の人材



山梨大学 2010

Outline of National University Corporation
"University of Yamanashi"

平成22年7月発行
編集・発行 国立大学法人 山梨大学総務部 総務・広報課
URL <http://www.yamanashi.ac.jp/>





学長挨拶

山梨大学は「地域の中核、世界の人材」というキャッチ・フレーズを掲げて、地域の産業・文化・教育・医療の中核を担う事のできる、高い知的能力と道德意識を持った高度専門職業人の育成を重要な使命としています。この使命を達成するために、高度な研究を推進するとともに、先端領域の世界的研究拠点を形成し、これから得られた成果を広く社会に提供しています。また、これら高度な研究を推進する過程で、優れた課題探求能力と応用力を持った国際的に活躍できる人材の育成を目指しています。この結果、これまでに本学の3学部、教育人間科学部・医学部・工学部から、実社会の様々な領域の中核として活躍する優秀な人材が輩出しています。

教育人間科学部、工学部の在る甲府キャンパスと医学部キャンパスは離れていますが、1年次生は全員が甲府キャンパスで、基礎学力の修得と人格の陶冶を目指した全学共通教育科目を履修しますので、同じ学部の学生諸君や目標も考え方も異なる他学部の学生諸君と積極的に交流を深める機会を持つ事ができます。

大学院には、教育学研究科及び医学工学総合教育部があり、学士課程修了後に更に深い専門的知識と応用的能力を身に付けたい学生諸君の要望に応じ且つ社会の発展に寄与するため、様々な分野の先進的、学際的な教育・研究を遂行しています。特に、「グローバルCOEプログラム」に採択された、水災害防止対策の確立を目指す「アジア域での流域総合水管理研究教育の展開」、や経済産業省、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)と山梨県の支援により設立された、燃料電池ナノ材料研究センターでの、わが国におけるエネルギー供給の安定化・効率化、地球温暖化問題の解決への貢献を目指す「固体高分子形燃料電池実用化戦略的技術開発」などの世界最先端研究を展開

しています。また、山梨県の名産品であるブドウやワインに含まれるポリフェノールの医学的効能の分子生物学的研究、脳科学研究戦略推進プログラムに採択された、「大脳聴覚野の直接電流刺激法による聴覚BMIの開発」や新しいイオン化法を用いた質量分析法の医学研究への展開など医学工学融合領域でも優れた研究を展開しています。また、本学が早稲田大学と共同で、「戦略的大学連携支援事業」に応募し採択された、「国私立大学間連携による医学・理工学に精通した先端生命科学分野の国際的研究者の育成」事業では、山梨大学大学院(医学学域)と早稲田大学理工学術院(先進理工学研究科)が連携し、連携大学院協定の下、「生命科学に精通した先進的医学研究者」と「医療現場と医のこころを理解した先端生命科学者」という2つのタイプの国際感覚を有する優れた人材の育成を目指しています。

本学の研究は、山梨県、甲府市、中央市、岡谷市などの地方自治体や東京エレクトロン(株)、山梨県ワイン酒造組合などの企業との連携のもとに進められているものも多く、地域産業の振興にも貢献しています。さらに、国際的な産学官連携活動を強化するため、新潟大学と共同で、国際・大学知財本部コンソーシアム(UCIP)を設立して、大学間ネットワークを構築し、国際展開に必要な人材の養成や情報発信・共有化を進めており、連携機関として静岡大学、芝浦工業大学、電気通信大学、信州大学が加わっています。

山梨大学は、以上のように、社会の中核として活躍できる人材の育成と産学官連携事業の推進による地域への貢献を重要な使命としています。この目標達成のため、本学では、自ら点検・評価を行うとともに、社会からの声を広く求め、絶えざる改革を推進しています。

国立大学法人山梨大学
学長 前田 秀一郎

山梨大学 プロジェクト KOHSHU[甲州]

「地域の中核、世界の人材」を掲げる山梨大学では、2006年にプロジェクト「甲州 KOHSHU」を宣言しました。
新たな時代に向けて山梨大学が目指すべき志を、いにしえからの山梨の呼び名「甲州 KOHSHU」を用いて6つの言葉で表しました。
山梨大学は知と技術の創造を図り、新たなプロジェクトのもと進化しつづけます。

- Knowledgeability** 知の中核となる教育・研究
- Originality** 独創的な研究
- Humanity** 人類愛に基づいた教育・研究
- Speciality** 専門性を重んじた教育・研究
- Hospitality** 人間性豊かな教育・研究
- Universality** 世界で通用する教育・研究

CONTENTS UNIVERSITY OF YAMANASHI

学長挨拶	1
プロジェクト[甲州]	2
Universality	3
Knowledgeability	5
Speciality	7
Hospitality	8
Originality	9
Humanity	13
施設案内	14
キャンパスマップ	17

Organization chart



山梨大学 プロジェクト
KOHSHU
Universality
 世界で通用する教育・研究



山梨大学憲章

山梨大学は、個人の尊厳を重んじ、真理の追究と学問の自由を大切に、多様な文化や価値観を積極的に受け入れます。

また、社会の要求に応えつつ、広い知識と深い専門性を追求し、地域の中核となり、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人材を養成する場となることを表明します。

この憲章に基づいて、山梨大学の役員・職員・学生は、志を同じくするすべての人々と協力し、以下の目標の達成を目指します。

未来世代にも配慮した教育研究

山梨大学は、現代世代だけでなく、未来世代の福祉と環境にも配慮した視点に基づいて、教育研究を行います。

世界的研究拠点の形成

山梨大学は、国際的視野を持って、問題の発見と解決に取り組み、世界の人材が集う研究拠点を構築し、学術及び科学技術の発展に貢献します。

地域から世界へ

山梨大学は、地域社会が抱える課題を取り上げ、その解決に地域と協同してあたり、得られた成果を世界に向けて発信します。

絶えざる改革

山梨大学は、自ら点検・評価を行うとともに、社会からの声を広く求め、絶えざる改革を推進します。

諸学の融合の推進

山梨大学は、専門領域を超えて協し合い、諸学の柔軟な融合による新しい学問分野を創設し、さまざまな課題の解決に努めます。

国際社会で活躍する人材の養成

山梨大学は、市民としての倫理性と自律性を身に付け、専門性をもって、国際社会で活躍できる人材の養成に努めます。

現実社会への還元

山梨大学は、教育研究の成果が社会に応用され、役立つよう、社会に積極的に還元することに努めます。

アドミッション・ポリシー

—山梨大学が求める人、養成する人材—

【理念・目的】

豊かな人間性と倫理性を備え、広い知識と深い専門性を有して、地域社会・国際社会に貢献できる人材を養成する教育・研究を行います。

【キャッチフレーズ】

地域の中核、世界の人材

【教育目標】

個人の尊厳を重んじ、多様な文化や価値観を受け入れ、自ら課題を見だし解決に努力する積極性、先見性、創造性に富んだ人材の養成を目指しています。

【アドミッション・ポリシー】

本学の理念・目的を理解し、学習意欲と社会に貢献したいという意思のある人を求めています。

シンボルマーク

たわわに実った葡萄の房が輝く太陽の光に照らされているところを立体的にデザインしました。

繋がった円は、「学問の融合」と、本学が育んだ教育・研究の情報が地域さらには世界に向けて発信され、再び本学に戻ってくるという「循環的な相互関係」を、そして、独立した円は、輝く太陽と新しい山梨大学が希求する理念を表現しています。

葡萄は、古くから生命や知識、そして文化のシンボルとして知られています。

太陽の光があたった葡萄は、山梨大学がますます国際社会に貢献していく理想像も重ね合わせています。



山梨大学 プロジェクト
KOHSHU
Knowledgeability
 知の中核となる教育・研究

山梨大学の現状

教育人間科学部、医学部及び工学部の3学部から構成され、あわせて全国でも唯一の医学、工学の領域を融合した大学院(医学工学総合研究部・同教育部)を有しています。

また、教育に関しては、教養教育の充実、専門教育の実質化を実施しており、研究に関しては、先端的、独創的研究が数多く行われています。

さらに、地域連携推進事業や産学官連携・研究支援事業により、本学の知的資源を地域活性化や文化の向上に活かしており、新潟大学と連携した国際・大学知財本部コンソーシアムにより、国際的な産学官連携を推進しています。

教育

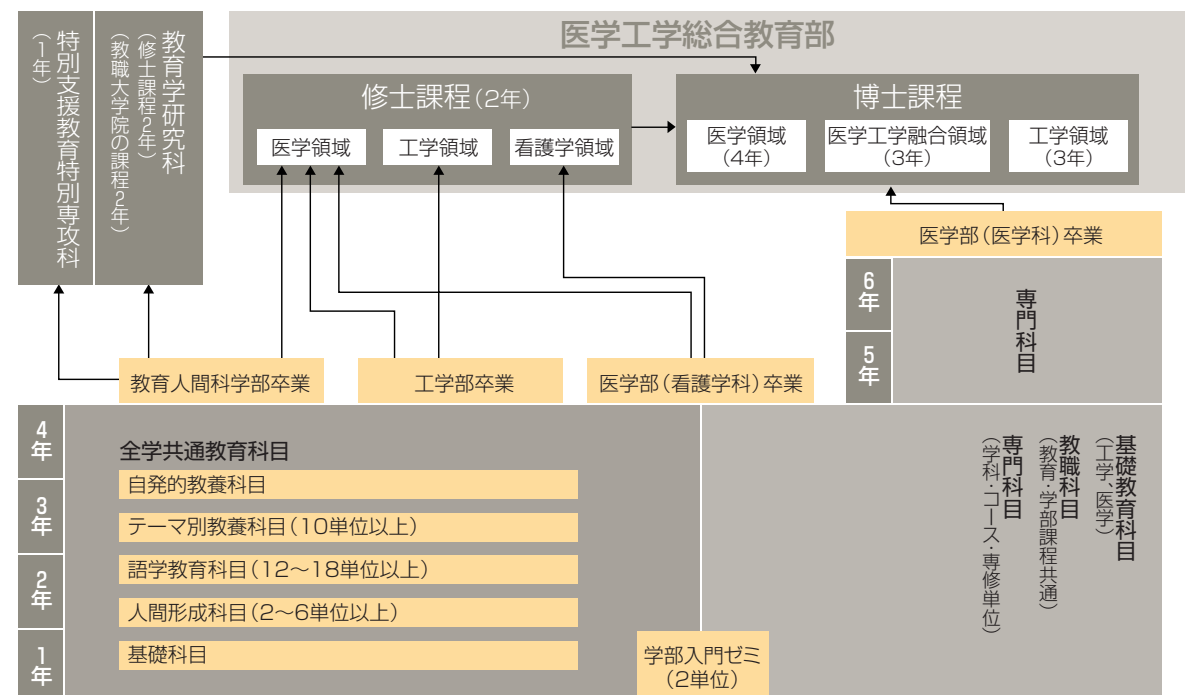
教養教育

目的

個々の能力に応じた基礎学力・語学力の向上、キャリアニーズに対応した人間力の育成、現代社会の問題に積極的に関わる姿勢の涵養などを目的とします。

目標

個人の能力を引き出すとともに、学習意欲の高い自発的な人材を育成します。また、学生自らがいかに生きるかを考え、自身のアイデンティティの確立ができる人材を育成します。



学部

教育人間科学部

【理念・目的】

現代社会における人間及び社会に関する課題を実践的に担い、豊かな人間生活の構築に寄与する人材養成のための教育・研究を目標としています。

【キャッチフレーズ】

教員養成と人間科学の視点から

【教育目標】

幅広い教養と専門的知識を持ち、人間及び社会に関する課題を解決する高い実践力を備え、豊かな人間生活の構築に貢献できる人材の養成を目指します。

【アドミッション・ポリシー】

自ら学びたいという意欲を持ち、人間や社会への深い理解を持ってそこにある課題を解決し、この努力を継続する意欲のある人を求めます。

課程・学科 ▶ 学校教育課程 生涯学習課程 国際共生社会課程 ソフトサイエンス課程

医学部

【理念・目的】

深い人間愛と広い視野を持ち、医の倫理を身に付け、科学的根拠に基づいた医学的知識、技術を備え、地域医療や国際医療に貢献できる医療人や国際的に活躍できる優れた研究者を養成する教育・研究を行います。

【キャッチフレーズ】

人類の健康を支える医療人教育

【教育目標】

病める人の苦痛を自らの苦痛と感ずることができ、生涯にわたって医学的知識、技術の習得に努め、地域社会・国際社会の保健医療・福祉に貢献する意欲を持った人材、及び疾患の原因や治療法を科学的に追究し、国際的に活躍できる研究者になろうとする意欲を持った人材の育成を目指します。

【アドミッション・ポリシー】

医療に深い関心を持ち、生涯にわたって学習する意欲があり、理論的思考力、総合的理解力、優れた問題解決能力を有する人を求めます。

課程・学科 ▶ 医学科 看護学科

工学部

【理念・目的】

広い教養と深い専門知識を身に付け、豊かな想像力と優れた判断力を備えた、将来を担う工学系技術者を養成する教育・研究を行います。

【キャッチフレーズ】

未来世代を思いやるテクノロジー教育

【教育目標】

基礎的・専門的学力、論理的な表現力やコミュニケーション能力を修得し、工学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果及び技術者が社会に負っている責任を理解するとともに、問題を発見・解決できる能力を持った人材の養成を目指します。

【アドミッション・ポリシー】

工学技術者となって社会に貢献しようとする意思を持ち、積極的な学習意欲、基礎的学力、論理的思考力・表現力などを有する人を求めます。

課程・学科 ▶ 機械システム工学科 電気電子システム工学科 コンピュータ・メディア工学科 土木環境工学科
 応用化学科 生命工学科 循環システム工学科 クリーンエネルギー特別教育プログラム
 ワイン科学特別教育プログラム 地域産業リーダー養成特別教育プログラム

Speciality

専門性を重んじた教育・研究

大学院

理念・目的

現代社会が直面する課題の解決に応用でき、また、これら応用研究の基礎となる学術研究を、国際的視野を持って創造的に推進する優れた研究者並びに高度で専門的な知識と能力を有する職業人を養成する教育・研究を行います。

教育学研究科修士課程

【教育目標】 教育実践に関わる学術諸分野と一般社会における専門的職業人の養成を目指しています。

【アドミッション・ポリシー】 教育問題に強い関心を持ち、実践的な対応力と専門的な力量を身につけたいという意思を持ち、地域・文化の向上に寄与したいという意欲のある人を求めます。

修士課程 教育支援科学 教科教育

教育学研究科教職大学院の課程

【教育目標】 教育に関わる高度の教育指導理論と優れた実践力・応用力を身につけた専門的職業人の養成を目指しています。

【アドミッション・ポリシー】 地域や学校において指導的・中核的な役割を果たし得るに不可欠な確かな教育指導理論と高度で優れた実践力・応用力を身につけたいという現職教員、及び実践的な指導力・展開力を備える新しい学校づくりの有力な担い手として自ら積極的に取り組み、将来的にリーダー役割を果たそうとする意欲のある人を求めます。

修士課程 教育実践創成

大学院医学工学総合教育部修士課程

【教育目標】 専門知識及び開発能力、問題発見・解決能力、国際的コミュニケーション能力を修得し、専門技術者・研究者として社会に貢献できる人材の養成を目指します。

【アドミッション・ポリシー】 専門領域の基礎的学力を持ち、さらなる知識の修得意欲があり、高度の研究や応用を目指し、その成果を社会に還元しようとする人を求めます。

修士課程 医学領域 看護学領域 工学領域

大学院医学工学総合教育部博士課程

【教育目標】 研究者もしくは高度な専門技術者として自立して研究活動を行うに必要な深い学識と高度な研究能力並びに高い倫理観を備えた優れた研究者もしくは高度な専門技術者の育成を目指しています。

【アドミッション・ポリシー】 基礎的な研究及び独創的な研究を推進し、現在及び未来世代に貢献することに意欲を持った人を求めます。

博士課程 医学領域 医学工学融合領域 工学領域

特別支援教育特別専攻科

【教育目標】 特別支援学校の教員の養成、及び小学校や中学校などで実施される特別支援教育を担う教員の養成を行うことを目的としています。

【アドミッション・ポリシー】 小学校または中学校、高等学校、幼稚園の教諭のいずれかの免許状の取得者で特別支援学校教諭一種免許状の取得を希望する人(Aコース)、すでに特別支援学校教諭一種免許状取得者で同専修免許状の取得を希望する人(Bコース)を求めます。

Hospitality

人間性豊かな教育・研究



医学部附属病院

理念

「一人ひとりが満足できる病院」

医学部附属病院は、病院の使命を達成するため、医療を受ける人、医療に携わる人など、本院を利用する方一人ひとりが満足できる病院をつくります。

目標

共に考える医療

患者さんの人権を尊重し、患者さんを中心とした、共に考える人間性豊かな医療を目指します。

質の高い安全な医療

特定機能病院として、高度の医療を実施するとともに、医療の安全に最大限の注意を払い、患者さんのQOL(クオリティ・オブ・ライフ)が向上できる安心・安全な医療を目指します。

快適な医療環境

患者さんに、最適な医療を提供できる医療環境の整備を目指します。

効率のよい医療

適切な人的配置とともに、医療情報管理システムを活用し、医療の効率化を目指します。

良い医療人の育成

人間の尊厳を守り、専門性を高めつつ国際性豊かな医療人を育成するため、充実した医療教育を目指します。

県内唯一の特定機能病院として、また、がん診療連携拠点病院・肝疾患診療連携拠点病院として、地域の中核的医療及び高度医療を担い、診療を通じて教育・研究を行う中で、患者さんの人権を尊重する医療人を養成する役割を担っています。
また、財団法人日本医療機能評価機構より認定を受けています。

山梨大学 プロジェクト
KOHSHU
Originality
 独創的な研究

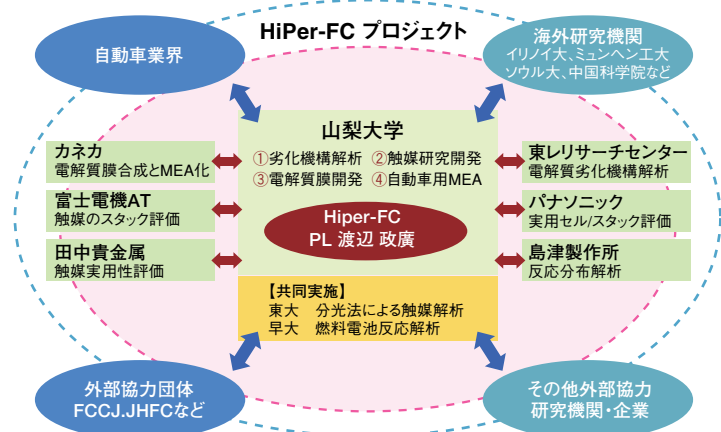
■ 研究

HiPer-FC(High Performance Fuel Cell)プロジェクト

■研究内容：HiPer-FCプロジェクトは、2008年4月にNEDO技術開発機構から山梨大学が中心となり受託した7年計画のプロジェクトです。反応、劣化メカニズムに係わる知見ならびにナノテクノロジー等の最先端技術の融合により、触媒・電解質膜・膜/電極接合体等の燃料電池の新材料研究を実施し、高性能・高信頼性・低コストを同時に実現可能な高性能セルのための基礎技術を確立することで、燃料電池の本格普及に資することを目的としています。

■研究目標：-30℃で起動し、最高100℃での作動が30%RH(相対湿度)で可能な膜/電極接合体を開発します。自動車を想定した燃料電池として、電極触媒の白金使用量は現状の1/10とするともに、効率は定格出力の25%、64%LHV(低位発熱量基準)で、耐久性は5,000時間作動及び6万回の起動停止が見通せることを目標とします。

■研究開発体制



グローバルCOEプログラム『アジア域での流域総合水管理研究教育の展開』

グローバルCOEプログラムは、「21世紀COEプログラム」の基本的考え方を継承した文部科学省のプロジェクトで、世界最高水準の研究基盤のもとで世界をリードする創造的な人材養成を図るための国際的に卓越した教育研究拠点の形成を支援するものです。

本学で進められた「21世紀COEプログラム：アジアアモンズン流域総合水管理研究教育」の成果を進展させて、総合的な流域管理を行うという内容が評価され採択されました。



山梨大学グローバルCOE
 水に起因する災害と健康被害を解決できる人材育成
 流域総合水管理実践力 国際水準の研究力 リーダーシップ能力

山梨大学グローバルCOEの展開

- 博士コースと修士コースの一貫教育
- 先端的観測手法の開発
- ヴァーチャルアカデミー
- より広大なアジア地域への拡張
- 医学と工学の学際的研究の推進
- 流域情報・資料解析ユニット
- 研究データ及び結果の実践応用
- 海外協同センター

山梨大学グローバルCOEの目的

1. アジア流域についての知識の習得、アジア流域に適合した技術と手法の開発
2. アジア流域の研究者や意思決定者に対してその技術や知識を伝えることができる人材育成システムの構築

背景

- 水問題の解決の必要性：持続可能な開発のための世界首脳会議、ユネスコにおける水に関連する科学の重視、WWAPの活動、世界水フォーラム、CEOPなど
- 水に係わる問題の激化：グローバル化の脆弱性拡大、地球温暖化の進展

戦略的創造研究推進事業(CREST)

「ナノ光電子機能の創生と局所光シミュレーション」、「高感度な可視光水分解光触媒の創製」

戦略的創造研究推進事業は、国の科学技術政策や社会的・経済的ニーズを踏まえ、国が設定した社会的インパクトの大きい目標(戦略目標)のもと独立行政法人科学技術振興機構が定めた推進すべき研究領域の戦略目標を目指し基礎研究を行うものです。

本学で採択されている「ナノ光電子機能の創生と局所光シミュレーション」の研究では、ナノメートル領域の局所光による励起伝達で機能し、スピンチェーン構造で制御する素子を世界に先駆けて開発し、信号処理機能をナノ化するとともに、近接場光の特性を利用した階層構造型の新概念信号処理システムの構築を目指した基礎研究を実施しています。

また、「高感度な可視光水分解光触媒の創製」の研究では、次世代エネルギー資源である水素の製造方法について、恒久的に地球上に降り注ぐクリーンな太陽光エネルギーを利用した水素獲得のための水の完全分解光触媒材料の開発により、環境にやさしいエネルギーサイクルの構築を目指しています。

元素戦略プロジェクト

「圧電フロンティア開拓のためのバリウム系新規巨大圧電材料の創生」

文部科学省が公募し、本学の申請が採択されたこの「元素戦略プロジェクト」事業は、物質・材料を構成し、その機能・特性を決定する元素の役割・性格を研究して、物質・材料の機能・特性の発現機構を明らかにすることにより、希少元素や有害元素を使うことなく、高い機能をもった物質・材料を開発することを目的としています。本学では研究期間終了後、実用化に向けた研究段階に移行することを目標として基礎的・基盤的な研究を進めています。

戦略的大学連携支援事業

「国私立大学間連携による医学・理工学に精通した先端生命科学分野の国際的研究者の育成」

戦略的大学連携支援事業は、国公立大学間の積極的な連携を推進し、各大学における教育研究資源を有効活用することにより、当該地域の知の拠点として、教育研究水準のさらなる高度化、個性・特色の明確化、大学運営基盤の強化等を図ることを目的としています。

本学が代表校となり早稲田大学と共同で応募し採択された、この事業は、山梨大学大学院(医学学域)と早稲田大学大学院(先進理工学研究科・生命医学専攻)が連携し、連携大学院協定の下、「脳神経科学」・「精神発達学」・「感染免疫学」などの分野の先端生命科学・医学応用研究を展開中です。

科学技術振興調整費 若手研究者の自立的な研究環境整備促進プログラム

「先端領域若手研究リーダー育成拠点」

若手研究者の自立的な研究環境整備促進プログラムは、若手研究者が自立して研究できる環境の整備を促進するため、世界的研究拠点を目指す研究機関において、テニユア・トラック制(若手研究者が、任期付きの雇用形態で自立した研究者としての経験を積み、厳格な審査を経て安定的な職を得る仕組み。)に基づき、若手研究者に競争的環境の中で自立性と活躍の機会を与える仕組みの導入を図ることを目的としています。

本学では、若手研究者に本学が世界に誇る最先端の研究領域において、豊かな研究費、複数助言者による研究指導・支援、十分な研究スペース等を提供することにより若手研究リーダーを育成するシステムを確立し、人事制度の改革と世界的研究拠点の形成を目指しています。

脳科学研究戦略推進プログラム

「大脳聴覚野の直接電流刺激法による聴覚BMIの開発」

文部科学省による「脳科学研究戦略推進プログラム」の中の「ブレイン・マシーン・インターフェイス(BMI)の開発」分野で採択された研究課題です。この研究は、大脳聴覚野における音声符号化の仕組みを解明し、数値モデル化し、音パルスインターフェースを開発し、大脳聴覚野を電流刺激することにより音声入力を行う、医工融合による独創的な研究です。

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

「甲信地域の調査研究拠点」

子どもの健康と環境に関する全国調査は、子どもの健康に影響を与える環境リスクを明らかにするために、全国10万人の妊婦と、その子どもが13歳になるまでを追跡するもので、環境要因が子どもたちの成長・発達にどのような影響を与えるのかを明らかにすることを目的としています。

本学では甲信ユニットセンターとして、山梨県、長野県対象市町村および山梨県医師会、長野県医師会等の関連機関との密接な連携の下で、子どもの健康と環境に関する全国調査に参加し、地域およびわが国の健康課題、環境課題の解決に貢献します。

地域産学官共同研究拠点整備事業

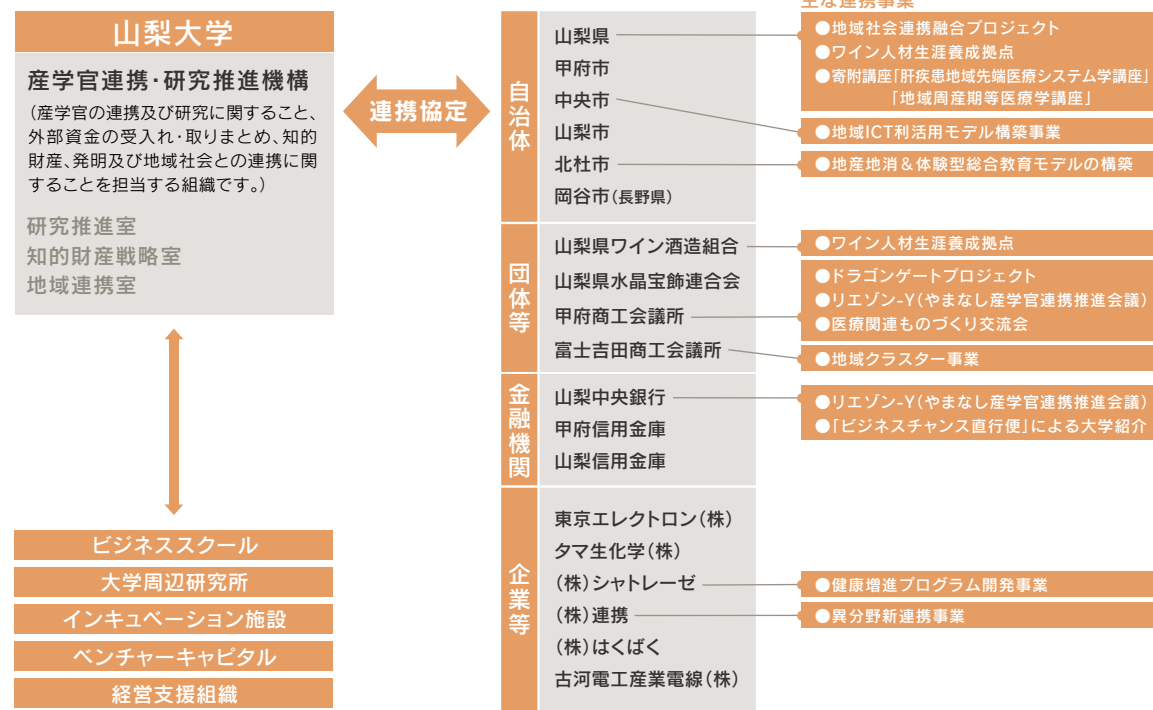
「次世代技術イニシアティブ研究拠点」

山梨県では、産学官連携の共同研究や人材育成などを推進するため、「次世代技術イニシアティブ研究拠点」を形成し、山梨県の特徴的な機械電子関連産業を基盤に「次世代環境技術分野」、「ライフサイエンス分野」の研究開発に取り組んでいる。

本学は、この拠点の「ライフサイエンス分野」において、ライフサイエンス技術の研究開発の基盤となる設備を総合分析実験センターに整備し、甲州種ブドウポリフェノール等中の老化抑制物質の探索を通じて「医薬品産業」の集積を図り、山梨県における健康産業の発展に寄与していきます。

山梨大学と地域との連携

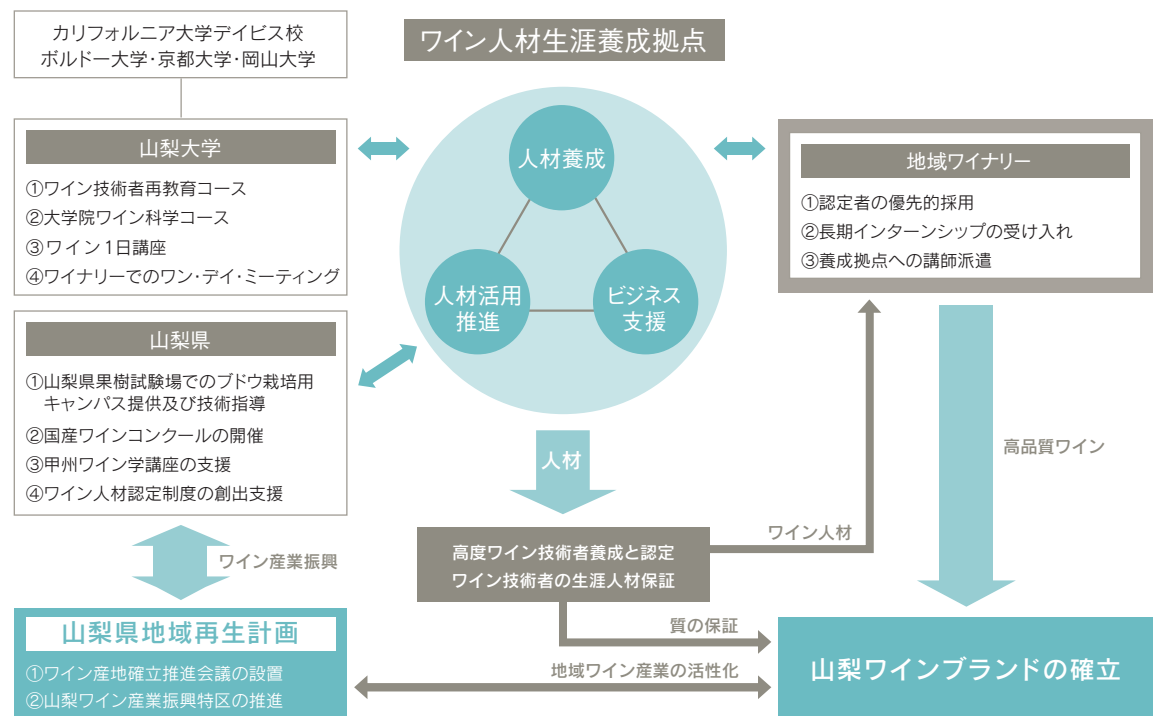
山梨大学で創出される知的財産を最大限に活用するために、地方自治体、公共団体および企業等との連携協定の締結を進めることにより、「知」を育てる「地域のインフラ」を整備し、これをベースとして新たな共同研究や人材交流等の産学官連携活動の推進を目指します。



ワイン人材生涯養成拠点

山梨大学・山梨県・山梨県ワイン酒造組合

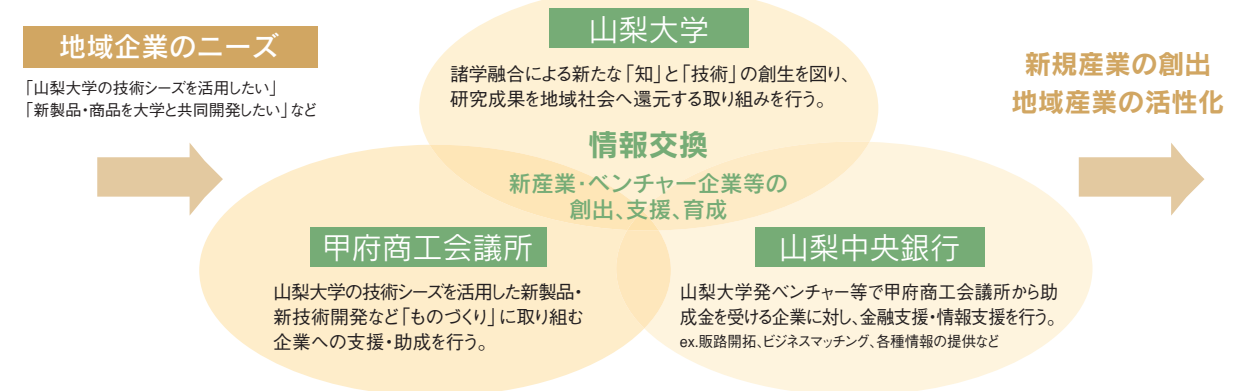
山梨大学、山梨県、地域ワイナリーのパートナーシップに基づいて、ワイン人材を生涯にわたって養成する拠点を構築する事業です。地域のニーズを反映させたブドウ栽培からワイン醸造、将来的には経営学までを視野に入れた実学中心のカリキュラムによりワイン人材を養成し、山梨の伝統産業である地域ワイン産業のグローバルスタンダード化を実現し、ワイン産業の活性化を目指します。



リエゾン-Y (やまなし産学連携推進連絡会議)

山梨大学・甲府商工会議所・山梨中央銀行

リエゾン-Yは、山梨大学と、甲府商工会議所・山梨中央銀行との間にそれぞれ締結された連携協定に基づく「三者」の有機的な連携により、産学連携事業の一層の推進を図ることを目指します。



ドラゴンゲートプロジェクト

山梨大学・甲府商工会議所

ドラゴンゲートプロジェクトは、山梨大学との包括的連携協定に基づいて、甲府商工会議所が進める産学官連携プロジェクトの総称で、山梨大学の技術シーズを活用した新技術・製品の開発など、新たな「ものづくり」を行おうという試みに対して、様々な支援を行うものです。プロジェクトの1つとして山梨大学のオープンラボ内にインキュベーション施設を開設し、大学と企業が密に連携して研究開発に取り組める環境を提供する事業を行っています。具体的には、甲府商工会議所がラボの室料(30㎡)を負担するほか、実用化に向けた市場調査などの資金提供も行っています。

IIEN.Y (やまなし産業情報交流ネットワーク)

山梨大学・山梨県

IIEN.Y(いいえん.どっとわい)は、山梨県内の様々な産業分野で活動する産・学・官の関係者が、肩書きや専門分野を超えて、フラットにそしてオープンに交流する人材交流のプラットフォームです。そのような場から「良い縁(いいえん)」が生まれ、その縁に育まれたビジネスチャンスが拡大し、新しい産業が創発されるような、肩肘張らないけれど実りの多いネットワークを目指します。

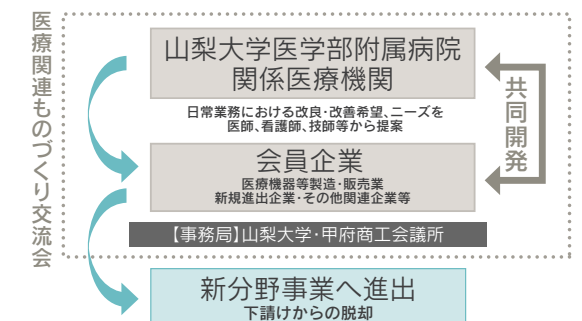


医療関連ものづくり交流会

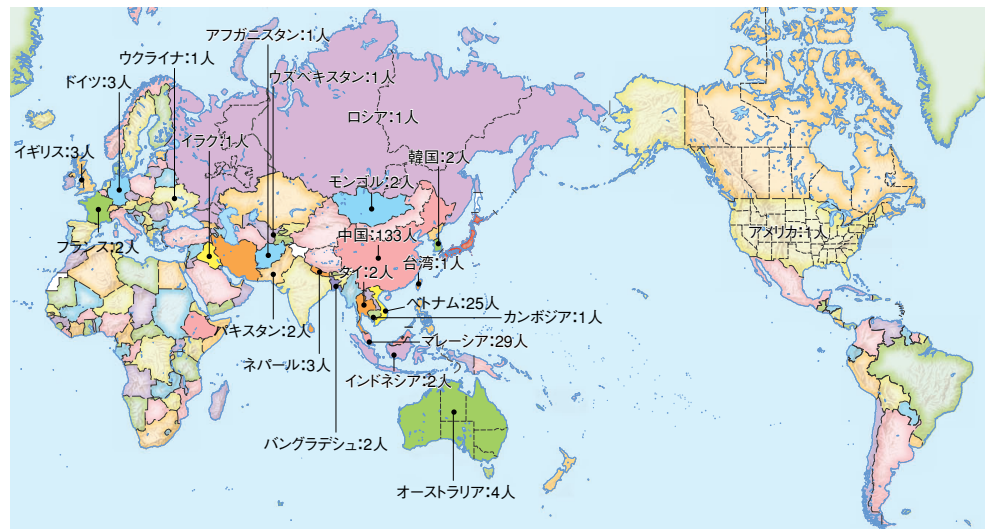
山梨大学・甲府商工会議所

医療関連ものづくり交流会は、山梨大学医学部附属病院及び関係医療機関の日常的な業務から生じる隠れたニーズを地元企業に紹介し、大学と地元企業とが連携して医療機器・用品等の共同開発や改良に取り組むことを目的とした交流会です。

大学附属病院等との共同開発を通じて、山梨県内に多い下請け型中小企業の医療機器製造業などの医療分野への新規進出および研究開発型企業への転換の推進を目指します。大学附属病院においては、医療現場の問題解決により、サービスの向上と、業務の効率化が期待できます。



山梨大学 プロジェクト
KOHSHU
Humanity
 人類愛に基づいた教育・研究



国際交流

留学生交流

優れた留学生の受け入れ・派遣を積極的かつ持続的に進めることは、本学を持続的に発展させ、国際的に通用するリーダーを育成し、国際的に開かれた大学となるために不可欠です。

そのため、本学は大学間交流協定を17大学と、部局間交流協定を15学部・機関と締結しています。

国際交流会館

勉学・研究に従事する外国人留学生・外国人研究者の宿舎として、教育・研究に係る国際交流の促進に資することを目的として設置されました。

環境宣言

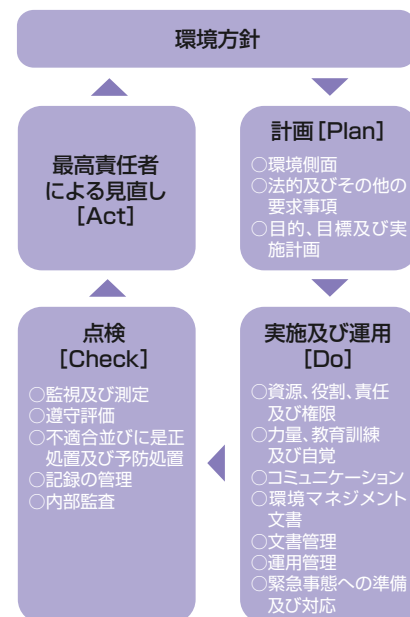
本学は、2003年4月7日、ISO14001を取得しました。

基本方針

本学は、基本理念を実現するために、職員及び学生など、本学に関わる全ての人々の協力のもとに、それぞれの立場で「個人として」、「組織として」、自発的・積極的に環境活動に取り組めます。

地球環境の保全・改善活動を推進するために、教育及び学術研究活動を通じて循環型社会を担う21世紀に必要な人材を育成するとともに、教育啓発活動を積極的に展開します。

1. 環境目的及び目標を設定し、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
2. 循環型社会の実現を目指し、廃棄物の減量化、再利用、リサイクルなどにより、省資源・省エネルギーに取り組み、環境維持・改善と汚染予防につとめます。
3. 適用される環境関連の法規、規制、協定、自主基準などを遵守します。
4. 山梨県における環境活動に積極的に参画し、地域環境の保全・改善活動を支援します。
5. この環境宣言は文書化し、大学ホームページなどを通じて、職員・学生など、本学に関わる全ての人々に周知するとともに、地域社会へも公開し、また、環境活動への取り組みを公表します。



施設案内

大学附属施設

■ 附属図書館

甲府キャンパスに本館、医学部キャンパスに医学分館があり、学習や教育、研究に必要な資料を約61万冊備えています。図書や雑誌だけでなく、ビデオやDVDのほか、IT時代に対応した電子ジャーナルやデータベースの導入に力を注ぎ、教育及び研究への支援を積極的に行っています。

また、地域社会の知的情報基盤としての役割を果たすことを目的として、調査、研究のために図書館を必要とする地域の方々にも、資料の閲覧、貸出、複写などのサービスを提供すると共に、山梨県内の大学図書館、公共図書館等の蔵書を一度に調べることができる横断検索システムの提供も行っています。

本館には、隣接して子ども図書室も開設され、大学と地域との共生に向けた活動を行っています。

学内共同教育研究施設

■ クリーンエネルギー研究センター

エネルギー及び地球環境問題の解決に貢献するクリーンエネルギーに関する研究を推進する目的で設置されました。

現在は、日本を代表するクリーンエネルギー研究（燃料電池研究部門と太陽電池・環境科学研究部門）の拠点として国家プロジェクトを推進し、学内外の研究組織、企業とも積極的に協力しながら最先端の研究活動を行っています。

また、従来からの学部及び大学院生への教育・研究指導に加え、新たに平成19年度からリーダーの人材育成を目的に学生を募集し、学部から大学院まで学べるクリーンエネルギー特別教育プログラムを実施しています。

■ 燃料電池ナノ材料研究センター

燃料電池自動車や家庭用燃料電池は、世界が直面している深刻なエネルギー・地球環境問題の有力な解決手段です。この実用化は裾野の広い産業を生み出し、大きな雇用も創出します。本センターは、このような燃料電池の世界的研究拠点形成を意図した国家的事業として、平成20年4月に設置されました。ここに、幅広い専門分野の教員20数名を集め、また国内外の大学や企業と共同して先端的研究を実施し、燃料電池社会の早期実現に貢献すると共に、国内外で指導的研究者・技術者として活躍できる人材教育を工学系大学院の中で進めていきます。

■ 機器分析センター

電子顕微鏡、原子間力顕微鏡、電子分光、EPMA、X線回折、質量分析、元素分析、クロマトグラフ、NMR、蛍光X線、ICP、赤外分光、ラマン、DNAシーケンス、三次元座標測定、万能試験機など、様々な精密分析計測が可能で20種以上の大型機器と関連機器を備え、共同利用に提供しています。

■ 総合分析実験センター

旋盤からリアルタイムPCRまで、研究に必要な機器を誰でもいつでも使えるようにサポートする機能解析分野、ルールと倫理に基づいた適切な動物実験環境を提供する資源開発分野、数学を駆使して最適な実験計画立案や統計解析を支える生命情報分野の3つの柱で、大学全体の教育・研究活動を支えます。

■ 総合情報戦略機構

高速スイッチをバックボーンとした基幹ネットワークとメールサービス、履修申告システム、掲示や休講情報を総合的に提供するキャンパスネットワークサービスなどの多彩なWebアプリケーション、そして全学共通のアカウントとパスワードによる統一認証システムにより利用者に優しく使いやすいキャンパス情報システムを提供しています。

また、附属図書館、学生会館、情報メディア館などにオープン端末を多数設置し、さらに校舎内をくまなくカバーする無線LANアクセスポイントにより各種サービスを利用しやすい環境も併せて提供しています。

■ 留学生センター

本学の留学生の勉学及び研究生活がみのもり多きものになるように指導と支援をしていくために設置されました。

具体的には、次のような指導・支援を行っています。

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| ①学部の留学生に対する日本語と日本事情の教育 | ②修学及び生活上の指導と相談及び文化交流 |
| ③国費留学生に対する学部及び大学院の予備教育 | ④大学院生及び研究生を主な対象とした日本語補講 |
| ⑤留学生と日本人学生間交流及び国際交流 | ⑥学生の海外留学の指導と相談と派遣の促進 |

■ 大学教育研究開発センター

本学における大学教育の質を確保し、教員の教育力の向上を図るため、大学教育に関する研究・開発を行うとともに、教養教育の実施を支援する目的で設置されました。

全学共通教育部門、教育活動企画・評価部門、教育力向上開発部門の3部門で構成されています。

■ キャリアセンター

本学の学生の就職、進学支援の企画・実施及び進路情報提供・分析だけでなく、学生のキャリア形成・低学年からの進路形成に係るキャリア教育を展開します。

常勤のキャリアアドバイザーを含む複数のアドバイザーが、進路に関する相談に応じます。

■ 保健管理センター

学生及び教職員の健康保持・増進施設です。

医師・臨床心理士等の資格を持つ教員を配置し、様々な相談に応じています。

教育人間科学部附属施設

■ 教育実践総合センター

学部理念を踏まえつつ、教育実践研究の充実に貢献する目的で設立された施設です。

具体的には、教員養成・教員研修段階におけるカリキュラム開発、情報通信技術を活用した教育方法の研究、教育ボランティア活動の組織運営のほか、教育現場が直面する諸課題の研究や現職教員対象の教育相談などを行っています。

■ 小学校

教育人間科学部との密接な連携のもとに小学校教育の理論及び実際に関する研究・教育を行います。

また、教師を志す学生のために実習を指導し、高い教職的教養を身につけた教師の養成に努めています。

さらに、研究成果を広く公開し、学習指導等についての新たな提案を行っています。

■ 中学校

教育人間科学部の教育研究計画との密接な連携のもとに、中学校教育の理論及び実際に関する研究並びにその実験・実証に寄与します。

また、学部の教育実習計画に基づき、教育実習生の観察・実習の実施及び指導に当たります。

さらに、本校における教育研究の成果を広く公開し、公立学校の研究や現職教育に協力して県下の中学校教育の推進に寄与しています。

■ 特別支援学校

教育人間科学部との密接な連携のもとに、知的障害児教育の理論と実践についての研究・教育を行います。

また、教育実習・介護等体験実習の計画に基づき、学生の実地研究、観察・実習等の実施と指導を行います。

さらに、特別支援教育におけるセンター校として、毎年公開研究会を実施するなど、教育実践や研究、教育相談活動を通して地域の特別支援教育・現職教育の推進に寄与しています。

■ 幼稚園

教育人間科学部との密接な連携のもとに、幼児教育の実証的研究を進めます。

また、学部学生の教育研究、教育実習の指導を行います。

さらに、幼児教育研究会の開催や研究会への参加を通じて、幼稚園教育の発展に努めています。

工学部附属施設

■ ものづくり教育実践センター

工学系における『ものづくり教育の重要性』が一段と重みを増している状況に鑑み、『ものづくりの創造的かつ実践的教育の拠点』として発足しました。

センターでは、地場産業である伝統工芸を取り入れた実習、機械工作実習、研究用機器の設計・製作に関する全面的支援を行っています。さらに受託加工の相談及び学外者に対する教育訓練（公開講座、放送大学授業支援等）も積極的に行っており、地域に開かれたセンターを目指しています。

医学工学総合研究部附属施設

■ ワイン科学研究センター

ワインを専門に研究する我が国唯一の研究機関です。山梨県や日本国内のワイン産業の発展に寄与するという目的に加えて、現在は世界的な視野に立ち、先端的な細胞工学や遺伝子工学技術を駆使した基盤研究から、最新のブドウ栽培並びにワイン醸造の実用研究までを包括する研究センターとなっています。

また、学部及び大学院学生の教育・研究指導並びにワイン科学のリーダー的人材育成を目的に、平成18年度からワイン人材生涯養成拠点プロジェクト、さらに平成19年度よりワイン科学特別教育プログラムに参画しています。

■ クリスタル科学研究センター

原子配列制御や集合組織制御によって新しい機能を持つ結晶の育成に関する研究、また、その応用に関する研究を行っています。新機能無機化合物、酸化物結晶、高温超伝導酸化物結晶、半導体超構造を有する結晶などが研究の対象です。

教育に関しては、卒業論文や大学院生の研究・教育指導を行っています。

■ 国際流域環境研究センター

国際的な水環境問題に対処するための研究センターです。地域や諸外国と連携し人的ネットワーク拠点を形成しながら、流域環境に関する研究・教育を進めています。世界各地で生じている水をめぐる様々な問題の解決や、気候変動に伴って予想される災害や環境変化への対策などに関して、医学・工学の研究者が連携して研究や教育を行っています。

その他の施設

■ 赤レンガ館

明治42年(1909年)4月、歩兵四十九連隊(通称甲府連隊)の食糧庫として使用が開始されました。第2次大戦後、他の建物が取り壊された後も教育人間科学部附属中学校舎の一部として使われ、平成14年(2002年)、当時の面影を残したまま改修されました。

平成18年度に登録有形文化財として登録されました。

■ 水晶展示室

大正8年に葉種業を営んでいた百瀬康吉氏より寄贈された水晶46点を中心に展示しています。長さ97cm、最大幅径30cm、重さ77.5kgの「大水晶」や、水晶の形成時に包有された鉱物が藻のように見える「草入り水晶」ほか、珍しい水晶が多数展示されています。

■ 附属図書館常設展示室

明治・大正・昭和期の日本文学を彩る様々な作家の初版本や文芸雑誌を順次展示しています。現在は、近代の異材である谷崎潤一郎関係コレクションを展示しています。このコレクションは与謝野晶子・「明星」関係コレクションと並んで、本学の近代文学文庫の中核をなすものです。

■ アイソトープ実験室

甲府キャンパスにおける実験用放射性同位元素を管理・保管し、同物質を用いる実験・研究をサポートすることを目的とします。

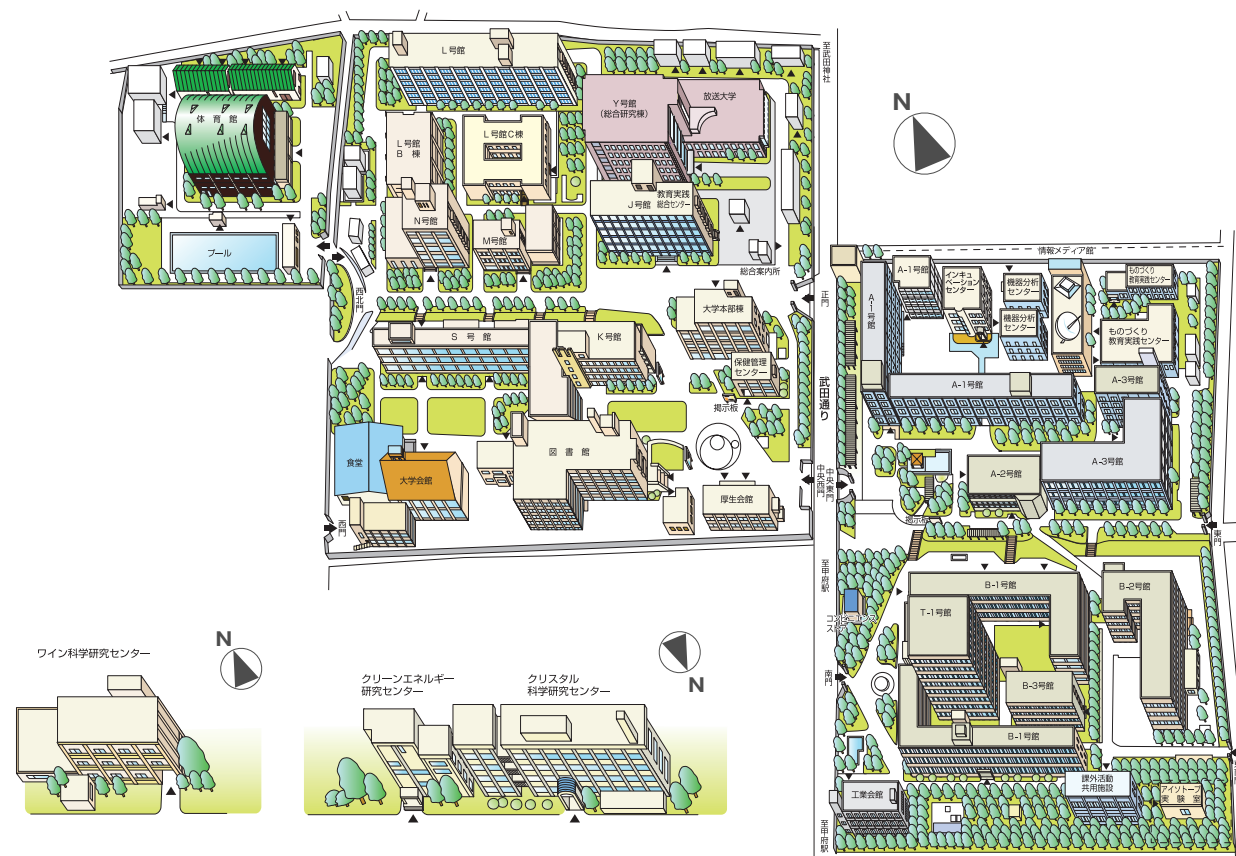
■ RI実験施設

医学部キャンパスにおける、医学、生物学の研究のためのラジオアイソトープ(RI)を有効かつ安全に使用するための研究実験施設です。

施設の中では30核種のアイソトープが使用でき、遺伝子レベルから動物を使用した実験まで行われています。

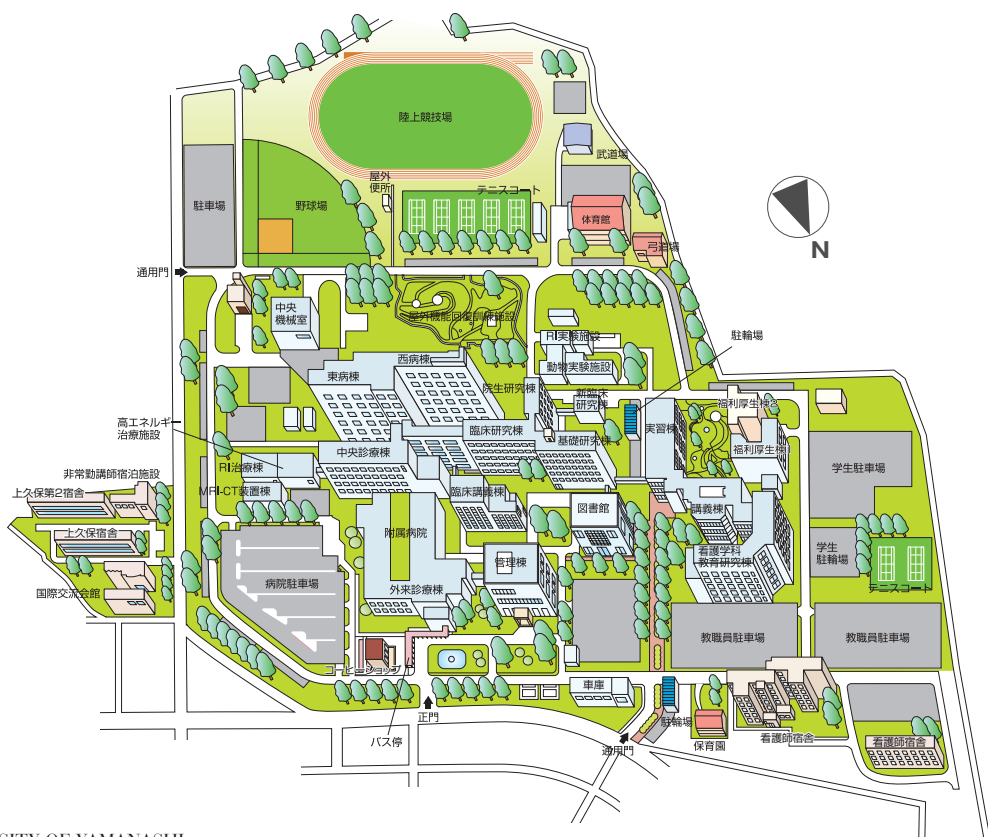
甲府キャンパス

KOFU CAMPUS



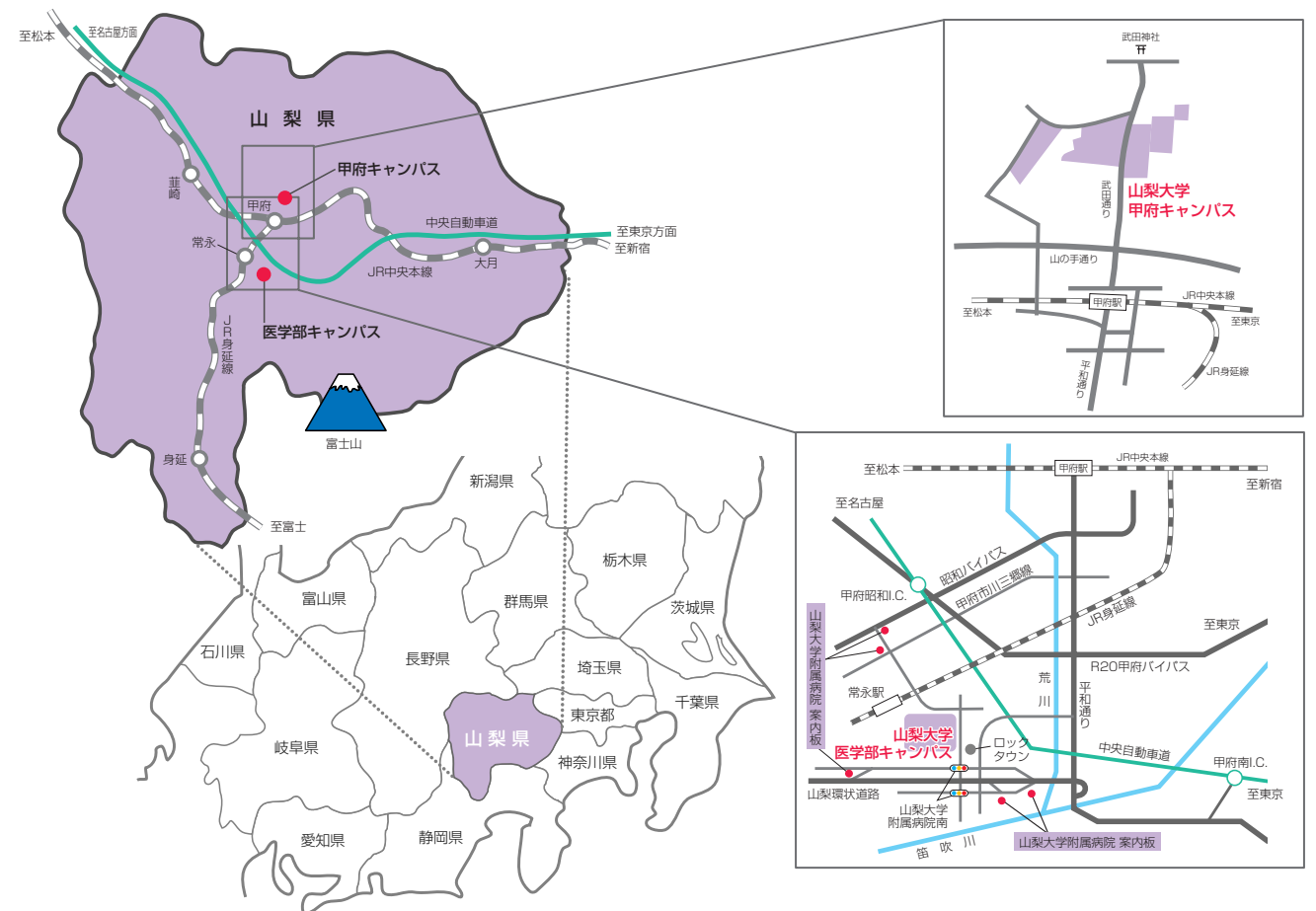
医学部キャンパス

MEDICAL CAMPUS



山梨大学へのアクセス

ACCESS



電車・バス

新宿⇒甲府駅 都心からだ、最速83分。特急なら乗り換えなし。

- 🚆 JR中央線 特急「あずさ」又は「かいじ」で最速83分
- 🚌 新宿駅西口高速バスターミナルより約130分

名古屋⇒甲府駅 名古屋からでも、特急に乗ればおよそ3時間。

- 🚆 ①JR中央線(塩尻駅経由)／塩尻で特急「しなの」から特急「あずさ」に乗り換え、最短181分
- 🚆 ②東海道新幹線・JR身延線(静岡駅経由)／静岡で新幹線「ひかり」から特急「ふじかわ」に乗り換え、最短195分
- 🚌 JR名古屋駅前バスセンターより約240分

甲府駅⇒甲府キャンパス 甲府駅から、信玄ゆかりの武田神社を目指して歩くこと15分。

- 🚶 甲府駅北口3番乗り場より「武田神社または積翠寺」行き約5分、「山梨大学」下車
- 🚶 甲府駅北口より武田通りを北上、徒歩約15分

甲府駅⇒医学部キャンパス 甲府駅から、附属病院前発のバスが出ています。

- 🚌 甲府駅南口バスターミナル8番乗り場より「山梨大学医学部附属病院」行き約30分、終点下車
- 🚶+🚌 甲府駅でJR身延線に乗り換えて「常永(じょうえい)」駅まで最短17分 + 常永駅から南東方向に徒歩約15分

車

🚗 東京⇒甲府キャンパス

首都高新宿線から高井戸IC経由で中央自動車道:高井戸IC～甲府昭和IC(高井戸＝甲府昭和間約1時間20分、113.2km)を下りて、一般道を北東の方角へ。国道20号線またはアルプス通り経由で約20分

🚗 東京⇒医学部キャンパス

首都高新宿線から高井戸IC経由で中央自動車道:高井戸IC～甲府昭和IC(高井戸＝甲府昭和間約1時間20分、113.2km)を下りて、一般道を南の方角へ。国道20号線、昭和バイパス経由で約15分

🚗 名古屋⇒甲府キャンパス

東名高速:名古屋IC～小牧JCT～中央自動車道:甲府昭和IC(名古屋＝甲府昭和間約3時間、245.4km)を下りて、一般道を北東の方角へ。国道20号線またはアルプス通り経由で約20分

🚗 名古屋⇒医学部キャンパス

東名高速:名古屋IC～小牧JCT～中央自動車道:甲府昭和IC(名古屋＝甲府昭和間約3時間、245.4km)を下りて、一般道を南の方角へ。国道20号線、昭和バイパス経由で約15分